



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8114
長崎市橋口町 1-1
長崎大司教館内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 インテックス

公式の記録に関して

教皇ヨハネ・パウロ2世の長崎訪問や長崎大司教区の公式行事など、数多くの記録を手掛けられたドイツ株式会社様がこのほど業務を終えられました。これまでの多大なご貢献に深く感謝いたします。

教皇レオ14世 聖年の謁見の席で言及

安全で核の脅威のない世界の構築努力を

コンクラーベ2日目の5月8日(日本時間9日)に第267代教皇に選出された教皇レオ14世。教皇は、選出後の最初のあいさつやメディア関係者との会見、聖年の謁見の席などにおいて、度々平和への希望を語られ、平和のために祈り行動するよう招かれている。平和の実現を目指して私たちに呼びかけ続ける教皇の言葉を、折に触れ心にとめたい。

「あなたがたに平和があるように」という言葉を用いられた。

(パチカン・ニュース)

「あなたがたに平和があるように」。親愛なる兄弟姉妹の皆さん、この言葉は、復活されたキリストの最初のあいさつです。キリストは、善き羊飼いとて、神の羊の群れにいのちをさげました。

わたしもまた、この平和のあいさつが皆さんの心に入り、皆さんの家庭や、あらゆる人に、あらゆる場所のすべての民すべての地に届くことを願います。皆さんに平和がありますように。(中略)

あなたがたに平和があるように

5月8日(木)コンクラーベでの選出後、教皇レオ14世はサン・ピエトロ大聖堂のバルコニーに姿を現し、ローマと世界に最初のメッセージと祝福をおくった。教皇は冒頭、「あなたがたに平和があるように」という言葉を



「教皇レオ14世、聖年のための謁見で 2025年6月14日 パチカン・聖ペトロ大聖堂 (@Vatican Media)」

平和を実現する人は幸い

また教皇は5月12日(月)、パウロ6世ホールでメディア関係者との会見を持たれた。その中で次のように述べられた。

「山上の説教」でイエスはこう宣言しました。「平和を実現する人々は、幸いである」(マタ5:9)。

この幸いは、わたしたち皆への挑戦です。しかし、それはとくに皆様に密接に関連しています。それは、皆様がさまざまなコミュニケーションを行うべく努めるように招くからです。(中略)

平和はわたしたち一人一人から始まります。わたしたちが他者を見、他者に耳を傾け、他者と語るときから始まります。(中略)

皆様は、紛争と平和への希望、不正と貧困の状況、世界をよりよいものとするための多くの人々の労苦を語る最前線におられます。そ

核の脅威のない世界

6月14日(土)サン・ピエトロ大聖堂で聖年の謁見があり、講話が行われた。講話の後、教皇は、イランとイスラエル間の情勢に憂慮を表し、平和を築くための誠実な対話を訴えられた。(パチカン・ニュース、上段の写真も)

「教皇は、『安全で核の脅威のない世界の構築の努力を、尊重ある出会いと誠実な対話を通し継続し、正義と兄弟愛と共通善に基づく恒久の平和を築き上げることができるよう』と願われた。

『誰も他者の存在を決して脅かすことはできない』と述べた教皇は、『和解のプロセスに着手し、すべての人の安全と尊厳を保証する解決策に貢献しながら、平和の理想を支えることはすべての義務である』と強調された」

*教皇のメッセージはカトリック中央協議会やパチカン・ニュースのウェブサイトで読むことができます。

2020年
「被爆75年から
5年間のチャレンジ」
<https://nuclear-free.net/>
核なき世界基金

教区生涯養成委員会主催 カトリック公開講座

永井隆博士の信仰と平和

が生涯の本として愛読したものが当時発行されていた「公教要理(カテキズム)」であり、その影響からカトリックの洗礼を

6月7日(土) 10:12

時、カトリック公開講座が浦上教会を会場に開催された。講師は永井隆博士の御令孫にあたる永井徳三郎氏、テーマは「永井隆博士の信仰と平和」についてである。

徳三郎氏はユーモアある自己紹介から始めて、永井隆博士の生涯についてスライド写真や当時の貴重な映像を紹介しながら、分かりやすくお話しくださった。

博士は医師として二度の従軍を経験し、現地では敵味方に関係なく治療を施し、長崎では自ら被爆しながらも、博士の元を訪ねてくる患者を親身になって治療した。博士



受ける。医師として働きながら自らも白血病を発症し、さらには被爆と苦難の人生を歩む。しかし「自分に何ができるか」の精神で、病床で執筆活動を開始。寝たきり生活の6年間で17冊の著書を残す。二畳一間の如己堂はその永井博士の書斎兼病室である。

被爆80年、聖年を歩むわたしたちが永井隆博士の信仰と平和を学び、如己愛人の精神を実践できますように。

教区生涯養成委員会
山添 克明

原爆投下から80年にあたって

長崎市永井隆記念館 館長・永井徳三郎氏に聞く

「平和を」―被爆し病床に伏しながらも平和を祈り、執筆活動を続けた永井隆博士(1908-1951年)。博士の精神を今に伝える長崎市永井隆記念館の館長を20年以上にわたり務める博士の孫永井徳三郎氏に、今年原爆投下から80年を迎えるにあたってお話をうかがった。



永井徳三郎氏
1966年徳島県生まれ。
2001年11月長崎市永井隆記念館館長に就任。

「20年以上館長を務める中で、来館者など皆さんの様子に変化を感じることは」

大きな変化は感じませんが、昨年の(日本被団協の)ノーベル平和賞受賞もあってか、国外からの来館者が顕著になっているように感じます。実際に戦争があつていて、それらの報道を日々聞くわけですから、世界的に平和への関心が高まっているという気はします。

―永井博士の書籍の英語版は

『長崎の鐘』英語版(非売品)を再版し3000部ほど作りました。それが何らかの一助になっていければうれしいです。2022年にロシア語版が発行されるなど、近年においても諸言語の翻訳本が出て、永井(隆)も陰ながら後押しをしていただいていると感じます。

―父・誠(まこと)さんの逝去後、館長職を引き継がれたのですか

はい。父も1年ほど館長を務めました。2000年に記念館が新しくなったとき私も一緒に務め始めましたが、原爆、戦争、何より永井隆を知らない、そんな人間が何の役に立てるのかがまず頭にありました。少しずつ勉強して1年、父が帰天し、周囲から「今後はどうなる」「孫がいるじゃないか」と。私としては後を継ぐ気はそのときは全くなかったのですが、亡くなった半年後に就任し、今に至っています。

―お父様から原爆に関する話を

聞いたことは

断片的にはありましたが、楽しい思い出ならまだしも、原爆戦争についてはこちらであえて尋ねようとしなかったです。父も叔母の茅乃も、積極的に話すことはなかった。幸い、父も茅乃も本を書いて遺してくれているんですね。特に父は亡くなる直前に永井隆の伝記物を書き、何かそこに思いがあつたのかなという気がします。自分のためだけに自分の息子に遺しておこうとか、それは今でも教科書です。

―平和に向けての一步は何だと思えますか

本当の意味での世界平和、世界一致というのは難しいかもしれませんが、すべてが「汝の隣人を己の如く愛せよ」というこの教に集約されていると思います。これはキリストの言葉、永井自身は「如己愛人」という言葉を紡ぎましたけど、最後はそれに尽きる気がします。世界中の一人一人、誰もが相手を重んじる気持ちで真から持つことができれば、本当の意味での平和が訪れるのかと。難しいことですが、努力していくことだと思います。

―子どもたちに伝えたいことは

そうですね、子どもたち、特に小学生、中学生の時というのはいろんなことを吸収し、体で覚えて

―今年は「希望」の聖年だが

永井隆も「希望」をずっと捨てませんでした。(1945年11月浦上教会での合同葬の)弔辞もそうですけど、主旨は「希望」という励ましたったと思うんですね。それは決して政治的な意図や裏に含みをもったものではなかったと私は思っています。自身の著書「いとし子よ」の中で「人間はどんな時でも望みを失ってはならない」と、永井は書いて伝えていますから。

修道会総長時代の2008年 教皇レオ14世は 長崎を訪問していた!

4月21日に教皇フランシスコが逝去された後、5月8日、教皇選挙「コンクラベ」によってローバート・フランシス・ブレヴォスト枢機卿が教皇に選出された。教皇名はレオ14世。1955年9月14日生まれ、米国籍出身、聖アウグスチノ修道会会員。

今年4月下旬から5月中旬にかけて、バチカンの動向は新聞、テレビ、インターネットのニュースなどで度々取り上げられた。世界中に多くの影響を与えた教皇フランシスコの逝去と葬儀、その後

のコンクラベも、選挙権をもつ2人の日本人枢機卿、前田万葉枢機卿と菊地功枢機卿の参加や、まさに同じ時期にコンクラベがテーマとなった映画の日本公開など、注目が集まった。

そして、新教皇に選出されたレオ14世について、かつて日本を訪問していたことが大きな話題となり、訪問先の一つだった長崎・城山教会(本紙6月号既報)では、聖アウグスチノ修道会の日本の本部がマスコミ対応に追われる様子がうかがえた。

▲ベトロ岐部と187殉教者列福式ミサの退堂時の写真に修道会総長時代の教皇レオ14世の姿が写っていた。後ろは、当時修道会日本分管区長を務めていた今田昌樹神父。



2008年11月24日長崎県営野球場(写真:ドイツ株式会社)

列福式のため長崎へ

教皇レオ14世は同修道会の総長を務めていた2008年、11月24日に県営野球場で行われた「ベトロ岐部と187殉教者列福式」に参列するため、

長崎を訪問している。188人の1人、トマス金鰐次兵衛が聖アウグスチノ修道会の日本人司祭であり、列福を祝うために駆け付けたのだ。2008年12月7日発行の「聖アウグスチノ修道会小教区報列福記念号」(城山・笹丘・港・葛西の4教会が共同製作)に記事が掲載されている。城山教会(遠山満主任神父)の許可を得て、一部紹介。

列福前夜祭(城山教会)

11月23日(日)午後4時から始まった「黙想と祈りの集い」の前夜祭。その中で午後6時から、次兵衛神父の列福感謝のミサは、超満員の参列者となった。



今田日本分管区長、R・プレヴォスト総長、フェルナンデスフィリピン管区長の共同司式で、16人の司祭とともに次兵衛神父の列福を祝い感謝をささげた。

福者トマス金鰐次兵衛神父を称え記念ミサ

神父が困難な司牧活動が続けた時の隠れ家

あつた次兵衛岩。その近くの長崎市神浦扇山町の扇山公民館広場で神父の列福を祝う感謝のミサが25日(火)10時からささげられた。

列福の喜びの熱い思いを胸に、ミサには聖アウグスチノ修道会総長以下、日本国内外の司祭17人と、列福式に参加した東京をはじめ聖アウグスチノ修道会小教区や京都教区の信徒ら約300人があふった。

ミサの最後に、次兵衛岩を見つけて以来、寝食をなげうって四半世紀にわたり世の多くの人たちに紹介し続け、多大な貢献があつた山崎政行さんに、聖アウグスチノ修道会総長から、聖アウグス



チノ修道会の会員に列するとの証書(アフィリエイト)が満場の拍手のうちに授与された。

昼食後、アウグスチノ会司祭をはじめ総勢60余名は、次兵衛岩へと向かった。渓流の道になり、自然のままの大小の石伝いの難所が続く。歩くこと1時間半あまりで、ようやく次兵衛岩に着いた。

総長のメッセージ

当時のプレヴォスト総長が次兵衛神父について記した文書が、同修道会オーストラリア管区のウェブサイト公開されている。2008年12月

と付されたページにある文書には、次兵衛神父の生い立ちやどのようにして司祭となり宣教したか、どのような殉教を遂げたかなどが書かれ、最後に「Fr. ロバート・F・プレヴォスト 聖アウグスチノ修道会総長」との記名がある。文書の終わりを日本語訳したものを以下に掲載する。翻訳は今田昌樹神父。

2008年11月24日、聖アウグスチノのトマス(金鰐次兵衛神父)は日本の長崎にて列福されます。私たち皆にとつて、この列福は自分自身の信仰を新たにし、イエス・キリストとその福音に対する非常に勇敢で寛大な証しに心を開き、自らを奮い立たされる素晴らしい機会です。今日の世界において、私たちのほとんどは信仰を表すことで自分の身が危険に晒されることはありませんが、キリストのメッセージと私たち教会の教えに対する無関心や真つ向からの反対にさへ出くわすことは決して珍しくありません。福者聖アウグスチノのトマスの強さと勇氣は、私たち一人ひとりが福音に仕えるために生涯をささげる決意を新たにするよう力を与えてくれます。

教皇レオ14世がかつて長崎を訪問されていたこと、日本で初めて行われた列福式に参列されて私たちと同じミサで祈っていたことを思うと、パパ様がよりいっそう近く感じられる。

※聖アウグスチノのトマス「Thomas de Saint Augustin」は金鰐次兵衛神父の修道名であり、聖アウグスチノ修道会の中での正式な名称です。

大司教館事務所 業務時間のご案内

《住所》カトリック長崎大司教館内
〒852-8114 長崎市橋口町1番1号

【1階】

総合受付 日～土曜日 毎日08:00～18:00
電話 095-843-4188(代表)
FAX 095-843-4322

法人事務所(会計事務室) 日曜日は休み

祝祭日を含む月～土曜日 08:30～17:30
電話 095-846-4248 FAX 095-848-8310

【2階】

教区本部事務局・諸委員会 土・祝日は休み
日～金曜日 08:30～17:30
電話 095-842-4450 FAX 095-842-4460

生涯養成委員会 日・月・祝日は休み
火～土曜日 08:30～17:30
電話 095-841-7731 FAX 095-842-4460

広報委員会 土・日・祝日は休み
月～金曜日 08:30～17:30
電話 095-843-3869 FAX 095-842-4460

(2025年4月から)

2025年度 第1回 司祭評議会

6月9日(月)10時から大司教館で行われた。承認事項は以下の通り。

第1回 教区顧問会

6月9日(月)13時から大司教館で行われた。承認事項は以下の通り。

① 2026年度教区司祭黙想会について

実施回数(1回とする)複数回に分けて行うか)も含め、講師や時期、場所の選考を教区本部事務局で行う。

② 司祭研修会のテーマ

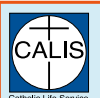
今年度の司祭研修会に關して、そのテーマを、教会の台帳の正確な記載と管理ならびに教会財産に關する管理や会計記録などの「司祭の実務」とする。

③ 駐車場の利用

教区施設駐車場(大司教館・神学院)の利用内規案が承認され、浦上教会でのミサや教区主催のミサ・講座・諸行事に参加する場合に駐車できる。継続的に駐車する場合は、許可証の申請を法人事務所に行う。

福者アクティスの列聖式決定

聖年行事「ティーンエイジャーの祝祭」に合わせ4月27日に予定されていた福者カルロ・アクティスの列聖式と、「青年の祝祭」に合わせ7月28日から8月3日の間に想定されていた福者ビエル・ジョルジョ・フラッサーティの列聖式は、教皇フランシスコの逝去によって延期・未定となっていた。教皇レオ14世は6月13日(金)、2人の若い福者の列聖式を今年9月7日(日)に行うことを決定された。



カリス通信

カトリック火災共済制度のご紹介

「カトリック火災共済制度」は、教会、修道院、学校、幼稚園、病院等のカトリック系関連諸施設を対象とした火災保険(火災共済)です。火災保険で補償されるリスクをご案内します。

●火災・落雷・破裂・爆発

漏電による火災や、落雷により建物被害を受ける事故が増えています。建築費が高騰しており、電気設備や屋外設備の復旧費用は高額となることから、十分な備えが重要です。長年にわたって火災共済の保険金額を見直していない場合は、万が一の際に支払われた保険金で再建できない可能性があります。ぜひ、カリスにご相談ください。

事故例: 落雷で門扉電気錠等が損傷 修理費 120万円
外部配電盤より出火 修理費 34万円

※本ご案内は「カトリック火災共済制度」の概要をご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス 連絡先 ☎ 0120-77-0033

●風災・雹災・雪災

近年、大型台風等による屋根、ステンドガラス、ドアなどの破損事故が増えています。台風が来る前の点検や、屋外設置物の固定などの対策をおすすめします。

事故例: 強風により教会屋根の十字架が破損 修理費 101万円

●水災(オプション)

豪雨による河川等の氾濫による浸水被害だけでなく、都市部においても、局地的な集中豪雨により排水能力を上回ったために浸水被害を受けるケースがみられます。

事故例: 豪雨により床上浸水し、床やヒーターが損傷 修理費130万円

「カトリック火災共済制度」では、水災の補償はオプションです。ご契約内容をご確認ください。

私たちが、お守りします。
大澤阿紀子 大西晃 毛利玲子
服部秀昭 川口 薫神父(顧問)



カトリック共済システム 検索 25TC-001084 (2025年6月作成) リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

世界平和へ祈りを...

明治石材

長崎本店 長崎市城栄町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP http://meijisekizai.shopinfo.jp

業務内容

お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻

電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・荒ゴミ捨て
・学生引越

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00～22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
携帯 090-7923-9005

8月9日、平和の音響け

浦上教会に『希望の聖カテリの鐘』

今年の長崎原爆忌、80年ぶりに浦上教会の大小1対の鐘が平和の音を響かせる。

1945年8月9日、原爆投下によって浦上教会の小鐘は大破した。大鐘の方はがれきの中から見つかり、現在も南側の鐘楼で折りの時を告げている。大破した小鐘は現在その時の姿のまま同教会原爆遺物展示室に保存



▲希望の聖カテリの鐘

ノーラン氏は2023年に長崎を訪れた際、浦上教会信徒の森内浩二郎さんと鐘について話を交わす中で、寄贈することを申し出たという。

アメリカから日本に渡り5月1日(木)に長崎入りした鐘は、15日(木)長崎大司教館で開かれた記者会見においてメディア関係者に披露された。

戦後80年の今年、8月9日(土)11時2分に初めて平和の祈りの音色が響く。



(写真上段から)▼5月15日大司教館での記者会見▼寄贈された鐘。名称は『希望の聖カテリの鐘』▼浦上教会の2つの鐘楼。北側(正面から見ると左側)の鐘楼は、7月16日までは空っぽとなっていた▼浦上教会原爆遺物展示室での一般公開の初日(5月24日)、来場者にも来日し、鐘の祝福を見守る(7月16日時点)。

《報告》 中村大司教様と 青年の交流会

6月15日(日)13時から、青少年委員会主催の



「中村倫明大司教様と青年の交流会」が行われ、司祭と青年合わせて34人の参加者が大司教様のもとに集まりました。聖年に合わせたこの交流会では、長崎南地区の巡礼指定教会を巡りました。



馬込



大山

井持浦ルルド祭

下五島地区

マリアの取り次ぎのうちに祈る

5月11日(日)13時から井持浦教会でルルド祭が行われた。下五島地区主催の行事で、およそ240人の参加者が集い、ともに祈った。

当初は玉之浦カントリーパークを出発して井持浦ルルドまで歩きながら口ザリオをささげる聖母行列と、ルルド前でささげる記念ミサを予定していたが、小雨が降り続く状況に急きょ、聖堂内での聖母信心と記念ミサに変更された。堂内での聖母信心は、マリアへの賛歌が歌われる中、教会学校の子どもの花まきや生花とろうそくの奉納で彩られ、参加した信徒、修道者、司祭による口ザリオが祈りの花束としてささげられた。また、異動により下五島地区に赴任した司祭たちの紹介が行われ、記念ミサが地区長の中田輝次神父の司式で執り行われた。



5月第2日曜は母の日にも当たっており、大司教によって届けられたメッセージが紹介され、神の母であり教会の母であるマリアの取り次ぎのうちに、すべての母親とその役割を担う人々のためにも祈りがささげられた。

『希望の巡礼者』として認定

聖年にあたり、教区の指定教会を巡る

「希望の巡礼者」をテーマとする2025年の聖年にあたり、長崎教区は教区内の25の教会を巡礼指定教会と定めている。聖年の期間中、教区司教が指定した教会への巡礼を行うことは、全免償をいただく一つの可能性として勧められている。

聖年の開幕以降、個人や共同体単位で皆が巡礼をする中、今年3月という早い時期に25教会すべてに認定書と記念品を渡した。長崎大司教館を訪れたお二人は中村倫明大司教から、「長崎教区の『希望の巡礼者』としての認定書」と教区シノドス担当者らが準備した手作りの記念品を授与された。



濱口昌三さんは、「このように認定書と記念品をいただけるのは、うれしです。巡礼をする」と感じます。訪ねた教会で、訪問者ノートに気持ちを書くことも、その教会の人たちに見てもらえたら(気持ち)が伝わると感じます。次は

大浦天主堂発行の「信徒カード」

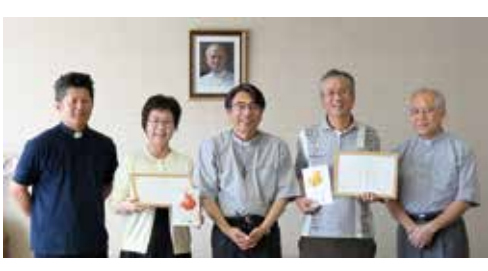
大浦天主堂 (国宝保存委員会) はこのほど、聖年、被爆80年、信徒発見160年にあたる2025年を有意義に過ごす一つの手がかりとして「信徒カード」を発行することを決め、5月下旬に長崎教区内の各小教区に案内を出した。

この信徒カードの発行は「長崎大司教区に籍を置く信徒」のみが対象。6月末までは教会単位での申し込みに対し割引価格で提供、7月以降は大浦天主堂で1枚300円(税込)で販売している。カードの提示により大浦天主堂を永続的に無料で拝観することができ、同天主堂は「カードを日常生活の中で身に着けられ、また病床時や出かけの際身に着けることで、信徒であることの意識づけになると思っています」としている。

一方、教区シノドスコアチームも信徒であることを証明する「信徒カード」の発行を提案中。7月下旬から順次説明する。



サイズ 5.5×8.5 cm



中村大司教は、「お二人のような方がいることは教区にとって希望です。福音を伝える人が、後にも続く人たちが、これからもあるように願います」と話した。



教区からお願い

現在、25教会への巡礼を終えた方が少しずつ増えていきます。今後は巡礼を終えられた皆様は、所属教会の主任司祭を通して、長崎大司教区の事務局にお伝えください。どうぞよろしく願いいたします。

戦後80年司教団メッセージ 「平和を紡ぐ旅 ―希望を携えて―」

2019年に来日・来崎された教皇フランシスコは、長崎市の爆心地公園で次のように述べられた。「核兵器から解放された平和な世界。それは、あらゆる場所で、数え切れないほどの人が熱望していることです。この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。個々人、宗教団体、市民社会、核兵器保有国も非保有国も、軍隊も民間も、国際機関もそうです。核兵器の脅威に対しては、一致団結して応じなくてはなりません」

また、教皇レオ14世は「平和はわたしたち一人一人から始まります。わたしたちが他者を見、他者に耳を傾け、他者と語るしかたから始まります」(2025年5月12日メディア関係者との会見)と語られている。

このほど日本司教団は、戦後80年司教団メッセージ「平和を紡ぐ旅―希望を携えて―」と「核兵器廃絶宣言2025」を発表した(いずれも6月17日付)。教皇の呼びかけと日本司教団のメッセージを受け、私たち一人一人が平和のために具体的に自分のできることを思いながら、戦後80年の今とこれからを考える機会としたい。

平和を望むすべての皆様、
若者の皆様へ

はじめに

今年、わたしたちは戦後80年を迎えました。この節目の年にあたり、あらためていのちを奪われた人々、さまざまなかたちで尊厳を侵害された人々、また破壊された自然環境を心に留め、祈りをささげます。人の生涯と同じほどの年月を経て、わたしたちは今、人間の尊厳を大切にすること、いのちを、平和を実現しようという願いを、どのように次の世代へと受け渡していくのでしょうか。25年に一度カトリック教会で祝われる聖年を迎えた今年、平和な世界を造る希望をもって皆様と、とくに若者の皆様とともに歩みを進めていきたいと願っています。

戦後80年を経て

2024年10月に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞しました。「核兵器は極めて非人道的な殺りく兵器であり人類とは共存させてはならない、すみやかに廃絶しなければならない」。



「慰霊の日」の6月23日、司教団と那覇教区を中心とした多くの人々が徒歩巡礼を行った。写真は沖縄県糸満市にある魂魂の塔。

受賞に際し行った演説で代表委員の田中熙巳氏が語ったことは世界の人の心に届き、核廃絶について考えるきっかけとなったことであろう。そのことばには、80年にわたって語り続けてこられた重みがありました。あの戦争を経験した多くの人が、日本でも、世界でも、80年の間その経験を語り伝え、平和のために行動してこられたのです。

80年が経過した今、実際に戦争を経験した人は非常に少なくなってきました。ですからこそ、わたしたちは歴史的事実に誠実に向き合い、学び、記憶にとどめ、次世代に伝え、平和のた

めに生かしていかなければなりません。教皇フランシスコは2019年広島にて次のように言われました。「思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。これらは、まさにここ広島において、よりいっそう強く、より普遍的な意味をもちます。この三つには、平和となる道を切り開く力があります。ですから、現在と将来の世代に、ここで起きた出来事の記憶を失わせてはなりません」。

この意味で、若者の皆様が広島や長崎、そして沖縄に、巡礼や平和学習の旅をなさるのはとても大切な、意義のあることです。

わたしたちはアジア・太平洋戦争以前から、日清・日露戦争や植民地支配を含むさまざまな行為によって、日本が近隣諸国に対し多大な苦しみを与えてきたことを忘れてはなりません。80年前、戦争終結に至る歴史の流れの中で、カトリック教会が平和の実現に求められる役割を十分に果たせなかった側面があります。明治以降、日本国が天皇を中心とした国家体制を整える中で、カトリック教会は忠君愛国の姿勢を示そうと苦心しました。その過程で、正戦論を用いて日本の戦争を正当化し、支持する立場を取ったのです。こうした過去を真摯に受け止め、回心し、次世代を担う人々とともに平和への歩みを進めていきたいと思います。

世界の今

多くの市民による80年間の平和を目指す取り組みに並行して、国際連合とその加盟国は歩みを続けてきました。しかし平和を希求する国連憲章その他さまざまな規範は都合よく解釈され、また無視されることによって、世界は今、非道な戦争を目の当たりにしています。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルをはじめとする中東、またミャンマーやアフリカ諸国でも、日々、多くの人が殺され、目を覆いたくなる惨状が続いています。戦争は、人道的介入、予防、防衛などを建前にし、正義の名のもとに行われます。しかしそれらは自らを正当化するための拡大解釈であって、その結果多くの民間人が被害に遭い、環境が破壊され、さまざまなリスクが拡大するのです(回廊「兄弟の皆さん」258参照)。

さらに、実際に戦闘行為を行って、る国以外にも、戦争にならないように、また戦争になったときのためにと、軍備を強化する国が増えています。日本も同じで、日本国憲法9条により従来「できない」とされてきた集団的自衛権の行使容認、他国領土を攻撃できる長射程ミサイルの配備や武器輸出の解禁、自衛隊基地の新設、防衛費の大幅増など、国是としてきた平和主義がかすんでいます。

沖縄島をはじめ南西諸島においては、「防衛」の名のもと、次々とミサイル部隊が配備されています。80年前の沖縄戦では、9万4千人余りの一般住民を含む、20万を超える人のいのちが奪われました。沖縄の人々は、その恐ろしい戦争の記憶、そして戦後の米軍基地に関連するさまざまな暴力事件に苦しみが、あくまで非暴力による平和アピールを続けています。戦争を二度と繰り返さないように、性暴力を含む基地由来の被害が二度と起こらないように、そう叫び続けているにもかかわらず、今また、ミサイル基地等が目の前に作られているのです。沖縄の年配のかたがたの間には、「戦争の準備をしている」「戦争前と同じ歩みをしている」「そうした声が聞かれます」。

戦争そのものの恐ろしさ、罪深さは、多くの人にとって明らかですが、戦争へと人々を導いた日常における思想や価値観の植えつけが、知らぬ間に世論を戦争に向けて突き進むものへと変えていくことを、80年前の経験から学ばねばなりません。今の日本は果たして平和への道を進んでいるのでしょうか。

核兵器の廃絶に向けて

教皇フランシスコは2019年広島で「確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の所有はそれ自体が倫理に反しています」と言われました。

日本被団協のノーベル平和賞受賞は、世界が核兵器使用の脅威の中で「核

爆心地から約500メートル離れた浦上教会。聖堂下周辺の敷地には、被爆した聖人像(手前)がたたずんでいる。



抑止」から抜け出し、核兵器廃絶に向かうための大きな一歩です。

核兵器は爆発時だけでなく、その後の長い時間にわたる健康被害や社会的差別、そして環境破壊を引き起こすことを、被爆国に生きるわたしたちは経験してきました。日本の司教団は戦後50年にあたり、強い決意のうちに宣言しました。

「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任があります」「(平和への決意、戦後五十年にあたって)」。

核兵器廃絶に向けた取り組みは、広島・長崎と米国の司教たちとのパートナーシップによるネットワークなどにおいて広がりをみせています。今回の受賞が、核兵器のない世界に向けた希望の灯となるように祈るとともに、世界と日本政府がこの「時のしるし」を深く心に留め、一刻も早く核兵器禁止条約の署名・批准に向けて行動することを強く求めます。

真の平和とは

聖書が語る「平和(シャローム)」は、もともと「欠けたところのない状態」という意味をもつことばです。その意味で、平和は、単に戦争や争いがいない状態ではなく、この世界が神の前に欠けるところのない状態、すなわち神がきわめて

よいものとして造られたこの世界のすべてが、それぞれ尊重され、調和のうちにある状態のことだといえるでしょう。ですから、平和のために働こうとするときわたしたち自身の神との関係、人々との関係、自然環境との関係を振り返り、神の前に望ましい関係であろうと回心し、対話することなしには前に進めません。平和とは、核兵器や武力の均衡によってもたらされるものではないのです。

希望をともにして歩む

今年、カトリック教会は聖年を祝っています。これは、旧約聖書のレビ記(25章10節参照)にある「ヨベルの年」にちなんだ行事です。レビ記によるとこの年は、畑を休ませ、貧困などの理由により売却を余儀なくされた土地が返却され、雇い人となった同胞が解放され、負債が免除されたりする解放の年で、50年に一度巡ってきます。カトリック教会では、25年に一度聖年を実施し、神の前にすべての人が尊い存在であることを再確認し、権利を侵害されているならばその状態を解消し、搾取されているならばそれを返済し、負債から解放されるよう働きかけています。まさに、欠けてしまった状態から、本来の状態に戻す、平和を実現するための年といえるでしょう。

前教皇フランシスコは、今年の聖年のテーマを「希望の巡礼者」とし、「聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように」と招いています。

また、新教皇レオ14世は最初の祝福の際、「あなたがたに平和があるように……」。この平和のあいさつが皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように」と呼びかけられました。

平和を望むすべての皆様、若者の皆様、この80年の間、幾世代にもわたって受け継がれてきた平和への歩みを自らのものとし、希望を携え、平和を紡ぐ旅をともに歩み続けてまいりましょう。

2025年6月17日

日本カトリック司教団

日本カトリック司教団 核兵器廃絶宣言 2025

「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任があります」(「平和への決意 戦後五十年にあたって」)。

日本カトリック司教団は、戦後 80 年を迎えるにあたり、唯一の戦争被爆国の司教団として、広島・長崎の被爆者と市民が抱えてきた重い歴史と痛みを深く胸に刻み、核兵器廃絶に向けた強い決意をここに宣言します。

広島、長崎では、1945 年の原爆投下により多くの生命が失われ、今なお多くの人がその苦しみと後遺症を背負って生きていま

す。この悲劇を繰り返してはなりません。

核兵器の存在は、神がきわめてよいものとして造られたこの世界と人間の尊厳をおとしめるものであり、すべてのいのちを脅かす深刻な脅威です。核爆発の際に発生する放射性降下物(フォールアウト)による被害や広範囲の環境破壊は、地球規模で生態系に甚大な悪影響を及ぼします。また、被爆者をより広義で捉える「グローバル・ヒバクシャ」の視点からは、核実験やウラン採掘などに関連する被害者の存在も忘れてはなりません。したがって、核兵器の開発、実験、製造、保有、使用は、倫理的に許されるものではありません。

核抑止力という考え方は、紛争解決における有効な手段とはいえないばかりか、「安全保障のジレンマ」に陥ること、むしろ世界を核戦争の危機へと向かわせるものです。このような考えをわたしたちは決して容認できません。

わたしたちは、武力による威嚇を国家間の紛争解決の手段として否定する日本国憲法の精神を重んじ、平和的対話を通じて共存の実現に向けて働きかけてきました。いかなる紛争下においても、核兵器を威嚇手段として用いることは、国際法および国際規範の観点からも、決して容認されるべきではありません。

わたしたちは、キリストの福音に従い、対話を通じた平和の実現を目指し、すべての人の生命と尊厳を守るために、核兵器を完全廃絶するよう強く求めます。わたしたち司教団は、以下の行動を続けます。

・被爆の実相を世界中に伝え、核兵器の非人道性を訴え続けます。

・核兵器廃絶を目指す国内外の運動と連帯し、その実現に向けた行動を推進します。

・核兵器禁止条約(TPNW)の理念を支持し、日本政府が一刻も早くこれを署名・批准するよう働きかけていきます。

・平和教育や啓発活動を通じて、次世代に平和の理念を引き継ぎます。

世界は核兵器によらない平和を選択できるはずですが、核兵器廃絶を望む皆様に呼びかけます。すべてのいのちを脅かす核兵器によってではなく、すべてのいのちを尊ぶ神の愛の実践によって、神との、人々との、自然とのわたしたちの関係を調和のうちに保ち、平和な社会を実現するために祈り、力を尽くしてまいります。

2025 年 6 月 17 日
日本カトリック司教団

長崎大司教区 被爆 80 年 長崎 2025 夏 平和への祈りと学び

■平和作文コンクール

(主催 教区シノドス文化部)
期間 7 月 20 日(日)～10 月 26 日(日)
※詳細は左上の表をご覧ください。

■聖体の永久礼拝

(主催 教区)
日時 8 月 8 日(金)20 時～9 日(土)17 時
場所 浦上教会
※9 日の朝 6 時と 11 時 2 分に行われるミサの時間を除く
被爆 80 年、終戦 80 年にあたり、戦争がなくなり、核兵器が廃絶され、平和の実現に向けて力強く歩むことを、ご聖体の前で真剣に祈り願います。

■ともに歩む平和の巡礼者の集い

(主催 教区、平和推進委員会、青少年委員会)
日時 8 月 10 日(日)14 時～17 時
場所 浦上教会
希望の巡礼者として、また、平和の巡礼者としてともに歩むためにさまざまな方々と集うことを計画いたしました。世代を問わず、皆様がたのご参加をお願いいたします。

■第 53 回原爆殉難者慰霊祭

(長崎県宗教者懇話会(主催)、教区エキメニズム・諸宗教委員会)
日時 8 月 8 日(金)18 時 30 分
場所 爆心地公園(原爆落下中心地公園)
宗教・宗派をこえて、市民の皆様と共に原爆殉難者を追悼し、世界平

和への願いをあらたにしましょう。

■平和祈願祭

(主催 教区)
日時 8 月 9 日(土)18 時
場所 浦上教会、ミサ後、爆心地公園までたいまつ行列
※テーマは左記の通りです。
核なき世界のために子どもたちが集めた献金と青年たちが集めた署名がさがげられます。献金は「核なき世界基金」に寄付されます。

*長崎 3 地区の小教区の皆様は、特別な理由がない限り各小教区の主日前晩ミサに代えて、浦上教会で行われる平和祈願祭にご参加いただきますようお願いいたします。

■高校生沖縄平和学習

(主催 教区平和推進委員会)
日時 8 月 18 日(月)～20 日(水)
対象 高校生
太平洋戦争の激戦地であり国内唯一の地上戦を経験した沖縄の過去を直視し、米軍基地などさまざまな問題を抱える現在の沖縄を体験します。



ほしがけ

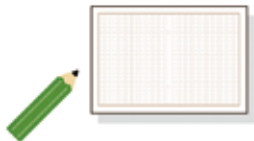
今年は第 2 次世界大戦の終結から 80 年の節目となる年。この 80 年という節目を機に、過去の戦争を振り返り、よりいっそう平和の尊さを再認識する機会として、日本各地で記念行事や戦争体験を伝える活動が行われ、また平和教育が進められている。▲日本カトリック司教団は「戦後 80 年司教団メッセージ・平和を紡ぐ旅―希望を携えて―」を発表し、戦争で失われた命、侵害された尊厳に心を留め、平和への願いを次の世代にどう伝えていくのかを問いかけています。また被爆した浦上教会には、大破した小鐘と同型の鐘がアメリカの信徒らによって復元され、寄贈された。この小鐘は

8 月 9 日に初めて平和の祈りの音色を世界に向けて響かせる。▲8 月 15 日は「聖母被昇天」の祭日であり「終戦の日」でもある。長崎では、原爆の悲劇を経験した地だからこそ、この二つの意味合いが深く重なり合い、特別な思いが胸に去来する。聖母被昇天祭が示す希望と、終戦の日に誓う平和への願いは、特に長崎において深い意味をもつ。▲悲劇を乗り越え、信仰の光を灯し続ける人々の祈りは、平和への力強いメッセージとして世界に響き渡る。今年も長崎の教会では、聖母被昇天祭の祈りとともに、平和への祈りがささげられ、私たちは原爆の惨禍を記憶し、あらためて平和の尊さを心に刻み、希望を胸に未来へと歩んでいく。

(@)

8 月 9 日平和祈願祭のテーマ パーチェ！パーチェ！Pace！

※イタリア語で「平和」の意味



2025 年 長崎大司教区 平和作文コンクール



このほどカトリック長崎大司教区では「平和作文コンクール」を呼びかけることといたしました。各小教区で案内をよくお確かめいただき、お互いに広くお声かけください。青少年の皆様、ぜひご応募ください！

【目的】

2025 聖年の今年、私たちは被爆 80 年・終戦 80 年を迎えました。原爆と戦争の悲惨な経験とその歴史を振り返り、特に子どもたちが平和の尊さをあらためて見つめ直し、キリストが与えてくださった平和を実現する決意を深めるため、小学生、中学生、高校生を対象に平和に関する作文コンクールを実施いたします。

1. 応募期間

2025 年 7 月 20 日(日)～2025 年 10 月 26 日(日) **必着**

2. 応募対象者

長崎大司教区所属のカトリック信者の小学生、中学生、高校生。求道者も可。

3. 作文のテーマ

- (例)
- ― 戦争と平和についての自分の決意
 - ― 平和学習または平和についての教育で学んだこと
 - ― 永井隆博士の本を読んで
 - ― 原爆に関する動画やドキュメンタリーを見て
 - ― 原爆経験者の話を聞いて

4. 応募規格

字数：400 字詰め原稿用紙に縦書きで 3 枚以内。
1 行目に「題名」、2 行目・3 行目に「教会名、学年」「洗礼名、氏名(ふりがな)」を記入する。

5. 提出先

作文の提出は、個人ではなく各小教区で取りまとめて以下の住所にご提出ください。

〒852-8114 長崎市橋口町 1 番 1 号 長崎大司教館
平和作文コンクール担当者 あて

6. 審査・表彰

小・中・高の各部門から最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を選定。
最優秀賞(1 名)：賞状、トロフィー、賞品
優秀賞(2 名)：賞状、賞品

*審査結果は『カトリック教報』12 月号で発表予定。受賞した作品は『カトリック教報』で連載する。

7. 表彰式

2025 聖年閉幕ミサの中で表彰式を行う。
日時：2025 年 12 月 28 日(日)14 時～
場所：カトリック浦上教会

《コンクールに関する問い合わせ先》

カトリック香焼教会 TEL 095-871-4349
ダニエル金 桐旭師(教区シノドス文化部担当)

2024年度決算に関する報告

カトリック長崎大司教区

単位：円

〔収入の部〕		〔支出の部〕			
科 目	決算額	科 目	決算額	科 目	決算額
1. 経常収入	444,024,429	1. 経常支出	454,728,979	保守管理費	1,650,830
教区費	105,460,190	祭儀費	3,210,154	車両費	2,274,509
特定献金収入	13,682,341	黙想会費	1,340,917	公租公課	835,955
特別献金	27,648,711	行事・活動費	8,267,922	負担金支出	33,978,937
寄付金収入	63,436,196	教化費	1,811,048	保健衛生費	584,403
出版物収入	1,420,260	研修費	495,686	支払手数料	6,445,196
研修会収入	1,322,600	図書費	550	雑費	5,180,829
広告料収入	1,476,000	出版刊行費	6,642,512	不動産管理費	996,044
購読料収入	65,000	神学生養成費	314,328	管理費	83,864,270
法務事務所手続費納入金収入	390,000	司祭生涯養成費	863,567	2. 経常外支出	43,387,447
宗教活動収入	214,901,298	寄付金支出	10,000	給与手当	295,632,119
非課税事業収入	4,378,699	宗教活動費	22,956,684	福利厚生費	815,022
負担金収入	3,000,000	学費	2,573,798	法定福利費	34,439,139
受取利息	25,722	生活費	5,059,788	人件費	330,886,280
雑収入	5,443,901	事業費	7,633,586	補助金支出	2,756,892
雑収入	5,469,623	会議費	2,006,909	立替金支出	4,708,007
立替金収入	4,524,958	旅費交通費	766,357	その他の支出	7,464,899
その他の収入	4,524,958	通信運搬費	3,301,442	2. 経常外支出	43,387,447
小教区拋出金	211,749,851	接待交際費	237,256	建物建設（購入）支出	3,195,500
2. 経常外収入	29,773,046	消耗品費	3,383,548	器具備品購入支出	1,567,500
特定預金取崩収入	8,573,046	修繕費	1,133,000	資産取得支出	4,763,000
繰入金収入	21,200,000	図書費	49,530	特定預金支出	3,651,418
（1）＋（2）収入合計	473,797,475	水道光熱費	15,070,674	繰入金支出	34,897,598
3. 前年度繰越金	107,968,969	リース料	1,087,586	預り金収支差額	75,431
収入の部合計	581,766,444	諸会費	67,000	（1）＋（2）支出合計	498,116,426
		保険料	4,814,265	3. 次年度繰越金	83,650,018
				支出の部合計	581,766,444

2024年度収支決算承認

長崎教区の現状報告

宗教法人カトリック長崎大司教区の2024年度収支決算書が、6月6日開催の教区経済問題評議会の審議を経て9日開催の教区顧問会で承認された。

収入の部では前年度に引き続き寄付金が予算を大きく上回った。とくに帰天司祭を含む遺産相続にともなうご寄付、また「終活」の一部として長い間の労働の実りを教会のためにおささげくださったご芳志が複数寄せられた。活動を停止した教区修女連からの寄付も含まれる。

教区運営の原資となる教区費については教区現勢を反映して予算達成には至らなかった。とはいえ、物価高の厳しい状況にもかかわらず信徒各位と各修道会、教区司祭団のご尽力により決算額を報告できたことに感謝以外の言葉はない。特定献金では近年聖ベトロ献金の減額が目立っている。新教皇の働きを通して世界の秩序にかかわる教会

のメンバーという自覚をもつてご協力を続けたいものである。

支出の部では宗教活動費に注目したい。教区の宣教司牧活動を収支の面から報告するのが決算であるとするれば、予算未達が意味するところは計画通りに実行できなかったということになるであろう。予算の作業が単なる事務処理にとどまらず、教区全体の計画・実行・反省・刷新の機会となればと願うばかりである。なお、教区本部機能移転ならびに不良債権の放棄にともなう資産の増減は、それぞれ特別会計の中で決算承認された。

2025年度は聖年に加え、被爆80年、信徒発見160年の関連事業や使用を終えた教区保有施設の処分等の費用支出が見込まれるが、引き続き教区の宣教司牧活動が財務的にも適正に継続発展するように努めたい。

教区会計 嘉松宏樹

2025年

四旬節愛の献金

総額 5,142,845円

(7月3日現在)

上記の他、直接カリタスジャパンへご送金いただいている分もあります。皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

2025年度 みつあみの会主催

一日の祈りの集い

「一日を神様とともに静かに過ごしませんか」―私たちそれぞれ置かれている現実の中で、神様と出会うことができるよう祈りの同伴者が祈りと個人的な対話（霊的同伴）を通してお手伝いします。

どなたでも、どこにでも参加できます。定員は15人。ぜひご参加ください。お待ちしております。

- ① 郵送 〒852・8142 長崎市三ツ山町415
- ② ファクス 095・843・7570
- ③ メール norasho@outlook.jp

【開催教会（会場）】	
5月20日(火)	西町教会（終了）
6月2日(月)	三浦町教会（終了）
7月21日(月)	福江教会（終了）
9月6日(土)	城山教会
10月11日(土)	本原教会
11月3日(月)	田平教会

- 【持参品】 聖書、筆記用具、昼食
- 【参加費】 500円
- 【申し込み方法】 各教会に配布するポスターおよび申込書をご確認いただき、開催日の2週間前までに下記①～③のいずれかでお申し込みください。
- （担当） 純心聖母会 Sr.山田房恵
- 【プログラム】
- ▼9時15分受付▼9時30分オリエンテーション、祈りの導入▼10時30分個人の祈り／対話①▼12時昼食▼13時個人の祈り／対話②▼15時全体会▼15時30分解散

新刊良書

★コルベ神父―友のためにささげたいのち―

著 千葉茂樹



愛によるこの殉教は、突発的ではなく、47年にわたる信仰の歩み、そして世界中の人びと（広義の「友」）のための、敵をも愛する崇高な生き方の結実である。

アウシュビッツ強制収容所、解放から80年。本書は1982年10月に刊行された単行本（児童書）を一般向けに変更して文庫化したもの。そのため、本文中の経年表記は刊行当時のまま。

女子パウロ会、税別1100円。

お知らせ

「菜募金からの支援」
▼火災により被災した信

訂正

（二〇二五年度「カトリック教会祝日表」）

【変更】
■33頁「馬込教会のファクス番号」→095・898・2056

【修正】
■30頁「生涯養成委員会と広報委員会のファクス番号」↓いずれも㊟095・842・4460

↓ファクス番号を廃止

▼大村殉教祭 9月23日(火)13時講演会（坂本久美子長崎純心大学長）、13時40分ミサ。シーハットおおむら・さくらホール。

▼聖母平和祈願祭 8月15日(金)13時ミサ、14時聖体の永久礼拝。アルカスSASEBO。

ふいつつ園

▼今年3月28日に発生したミャンマー地震。長崎教区は被災地支援のために7月8日、来崎していたヤンゴン大司教のチャールズ・マウン・ボ枢機卿に中村倫明大司教から100万円を手渡した。

徒へ見舞いのため、4月15日浦上小教区信徒2世帯へ合計30万円を、6月10日滑石小教区信徒へ15万円をそれぞれ送金した。

2024 年度決算に関する報告

71小教区決算集計表

単位：円

〔収入の部〕					
科 目	決算額	科 目	決算額	科 目	決算額
1. 経常収入の部	1,044,167,267	預り金収入	4,833,014	教区費	91,782,135
教会維持費	362,332,828	補助金収入	1,570,990	神学生養成援助費（封筒）	9,104,111
ミサ献金	88,828,165	その他の経常外収入	15,911,790	世界こども助け合いの日献金	1,927,104
ミサ奉納金	177,919,410	その他の収入	22,315,794	世界広報の日献金	1,923,899
祭儀献金	53,058,363	3. 前年度繰越金	1,311,837,615	聖ペトロ使徒座への献金	1,836,248
寄付金収入	53,857,742	収入の部合計	2,500,809,079	世界難民移住移動者の日献金	1,867,272
教区補助金	2,284,000	〔支出の部〕		世界宣教の日献金	1,817,968
その他の献金	50,289,180	科 目	決算額	宣教地召命促進の日献金	1,860,437
行事収入	6,422,801	1. 経常支出の部	918,539,693	特別献金	5,168,925
非課税事業収入	2,366,494	祭儀費	42,470,386	一葉募金	6,524,360
宗教活動収入	797,358,983	教化費	30,318,317	クリスマス募金	4,552,784
積立金収入	46,005,152	補助金支出	27,489,513	カリタスジャパン募金	5,284,768
墓地納骨堂管理費収入	17,855,048	寄付金	10,655,219	その他の募金	4,148,733
維持管理収入	63,860,200	図書費	6,410,205	預り金・献金支出	137,798,744
教区費	91,609,525	出版刊行費	7,505,636	雑費	15,116,013
神学生養成援助費（封筒）	9,108,061	行事費	31,951,650	その他の支出	15,116,013
世界こども助け合いの日献金	1,928,124	負担金	26,452,050	2. 経常外支出の部	282,611,340
世界広報の日献金	1,926,275	会議費	2,172,072	土地取得支出	1,689,960
聖ペトロ使徒座への献金	1,821,953	消耗品費	25,229,588	建物取得支出	53,975,930
世界難民移住移動者の日献金	1,855,780	リース料	14,159,112	構築物購入支出	39,824,588
世界宣教の日献金	1,804,510	通信費	12,070,002	器具備品購入支出	15,774,808
宣教地召命促進の日献金	1,839,508	旅費交通費	13,154,909	資産取得支出	111,265,286
特別献金	1,554,647	自動車諸費	22,505,439	退職給付引当金繰入支出	100,000
一葉募金	6,538,666	水道光熱費	86,369,917	特別目的預金積立金繰入支出	95,240,539
クリスマス募金	4,504,241	接待交際費	14,274,353	修理費積立金支出	1,094,896
カリタスジャパン募金	5,293,897	非課税事業支出	1,227,558	繰入金支出	96,435,435
その他の募金	3,758,068	支払手数料	4,511,051	内部借入金返済支出	7,000,000
預り金・献金収入	133,543,255	宗教活動支出	378,926,977	外部借入金返済支出	3,357,764
受取利息	430,507	修繕費	66,594,004	借入金返済支出	10,357,764
雑収入	48,974,322	保守管理費	24,600,964	預り金支出	5,262,071
その他の収入	49,404,829	墓地納骨堂管理費	17,785,541	その他の経常外支出	57,741,274
2. 経常外収入の部	144,804,197	保険料	26,369,116	その他の支出	63,003,345
資産運用収入	3,480,000	公租公課	346,842	予備費	1,549,510
土地売却収入	101,323	維持管理支出	135,696,467	3. 次年度繰越金	1,299,658,046
器具備品売却収入	0	給与手当	207,554,137	支出の部合計	2,500,809,079
資産運用収入	3,581,323	雑給与	29,292,624		
退職給付引当金繰入収入	0	退職金	20,000		
特別目的預金取崩収入	71,279,338	福利厚生費	11,351,310		
その他の繰入金収入	7,567,742	法定福利費	2,783,421		
繰入金収入	78,847,080	人件費	251,001,492		
内部借入金収入	40,060,000				
借入金収入	40,060,000				

	2023年度	2024年度
世帯数	17,000	16,646
①維持費／世帯数／月	1,836	1,814
②教区費／世帯数／月	464	459
③教区費／維持費（％）	25.3	25.3
④ミサ奉納金／世帯数／月	870	891
⑤ミサ献金／世帯数／月	445	445

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催 2025年度 聖書講座のご案内

オンラインでも受講可

いつも生涯養成委員会のカトリック講座、聖書講座にご協力、ご聴講をいただきありがとうございます。

2025 年度後期は聖書講座「創世記・出エジプト記」を読み進めていきます。わたしたちのあるべき姿が天地創造にて、わたしたちの信仰、生き方の模範が旧約の偉人たちを通して示されています。

わたしたちが神様の呼びかけに応えていく者としての歩みを見つめ直し、豊かな聖年となるための良い機会となれば幸いです。たくさんの申し込みをお待ちしています。

生涯養成委員会 山添克明

- ◆場 所 大司教館3階第1会議室 または オンライン受講
- ◆受講料 5,000 円（全 10 回分）＊聴講可能（1 回 1,000 円）
※ 2025 年度聖書講座から、受講料の支払いは「お振り込みのみ」の対応とさせていただきます。現金の取り扱いは対応いたしませんのでご注意ください。
- ◆申込先 カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会
Fax 095-842-4460 ✉cnsy.kouza@gmail.com
※お問い合わせのみ電話で受け付けます。Tel 095-841-7731
- 申し込みは
こちらから↑
- ◆申込期限 2025 年 9 月 15 日（月）
＊講座申し込みは「申込用紙」または「インターネット申込フォーム」からお願いします。
＊途中申し込み・聴講は随時受け付けます。

土曜日 午前10時30分～11時30分 ★第1回のみ10時30分～12時
テーマ：創世記・出エジプト記を読む

	月 日	講 師	内 容
第 1 回★	10 月 4 日	高見三明名誉大司教	創世記・出エジプト記 概説
第 2 回	10 月 18 日	松尾 太 師	天地の創造
第 3 回	11 月 1 日	瀬戸 高志 師	人祖の罪
第 4 回	11 月 15 日	平本 義和 師	ノアとの契約
第 5 回	12 月 6 日	ナム・シジン師	アブラハムの召命
第 6 回	12 月 20 日	古里 慶史郎 師	イサクの子どもたち
第 7 回	1 月 17 日	山本 一郎 師	ヨゼフ物語
第 8 回	1 月 31 日	一ノ瀬 輝幸 師	モーセの召命
第 9 回	2 月 7 日	湯浅 俊治 師	主の過越
第 10 回	2 月 21 日	山添 克明 師	十戒

